

<マニュアル訂正連絡票>

FUJITSU Software ASP PC ファイルサーバ説明書 V30

[J2K0-6090-01Z0]

2021年3月30日発行

修正箇所(章節項): 第2章 機能 2.5 注意事項

旧記事

新記事追加

新記事

・大量ファイルをコピーした時の動作について

WindowsからPCファイルサーバの共有フォルダに対して数千のファイルを一度にコピーした場合、Windows側に「予期しないエラーが発生した」が表示され、ASP側には「S5310 システム制御機能が異常終了した talloc_stackframe failed」が表示される。現象が発生した場合は、Windows側に表示されている「再試行」ボタンを押すことで処理を継続できる。

修正箇所(章節項): 5.3.2.3 サーバ環境の設定 図 5.8 サーバ環境の設定画面

以下の内容は、V30 (U21031 適用時以降) に限定される記事です。

旧記事

サーバの 状態	サーバ環境 の設定	共有の 設定	サービス の設定	ドメイン の設定	アカウント の管理
------------	--------------	-----------	-------------	-------------	--------------

サーバ環境の設定

設定ファイル名

設定しました。

アカウントファイル名	(必須)	<input type="text" value="/home/env/pfspassword"/>
IPアドレス(ネットマスク/ビット数)	(必須)	<input type="text" value="10.26.xxx.100/24"/>
ワークグループ	(必須)	<input type="text" value="WORKGROUP"/>
コンピュータ名	(※)	<input type="text" value="PFS"/>
サーバのコメント		<input type="text" value="PC FILE SERVER"/>
ログ出力ディレクトリ	(必須)	<input type="text" value="/home/pfslog"/>
最大ログファイルのサイズ	(必須)	<input type="text" value="512"/> Kbyte

※ ドメインに参加する場合、「コンピュータ名」は必須です。
半角英数字およびハイフン(-)の範囲で「コンピュータ名」を指定してください。

以下の「作成時のアクセス権」および「オプション」項目は、共有を作成する時の初期値となります。
共有ごとに設定値を変更したい場合は、「共有の設定」画面で設定してください。

作成時のアクセス権

	読み込み	書き込み	実行
所有者	<input checked="" type="checkbox"/> r	<input checked="" type="checkbox"/> w	<input checked="" type="checkbox"/> x
グループ	<input checked="" type="checkbox"/> r	<input checked="" type="checkbox"/> w	<input checked="" type="checkbox"/> x
その他	<input checked="" type="checkbox"/> r	<input checked="" type="checkbox"/> w	<input checked="" type="checkbox"/> x

オプション

<input checked="" type="checkbox"/> アーカイブ属性をサポートする
<input type="checkbox"/> システム属性をサポートする
<input type="checkbox"/> 不可視属性をサポートする

以下の「許可されるホスト」および「許可されないホスト」項目は、「共有の設定」画面の同項目よりも優先的に判断されます。
「共有の設定」画面でアクセスを許可している場合でも、本項目でアクセスを許可しなければ、そのホストからはアクセスできません。本項目には「共有の設定」画面で指定するアクセス許可の範囲よりも広い範囲の許可を設定してください。

設定できる値は、「IPアドレス」、「ネットワークアドレス」です。
複数の値を指定する場合は、「,(カンマ)」、「;(セミコロン)」、半角空白、または改行で区切って指定してください。
なお、「設定」ボタンを押すと、区切り文字はすべてカンマに変換されます。

許可されるホスト	<input type="text"/>
許可されないホスト	<input type="text"/>

サーバの 状態	サーバ環境 の設定	共有の 設定	サービス の設定	ドメイン の設定	アカウント の管理
------------	--------------	-----------	-------------	-------------	--------------

サーバ環境の設定

設定ファイル名

設定しました。

アカウントファイル名 (必須)

IPアドレス/ネットマスク(ビット数) (必須)

ワークグループ (必須)

コンピュータ名 (※)

サーバのコメント

ログ出力ディレクトリ (必須)

最大ログファイルのサイズ (必須) Kbyte

共有外へのシンボリックリンク 許可 不許可(推奨)

※ドメインに参加する場合、「コンピュータ名」は必須です。
半角英数字およびハイフン(-)の範囲で「コンピュータ名」を指定してください。

以下の「作成時のアクセス権」および「オプション」項目は、共有を作成する時の初期値となります。
共有ごとに設定値を変更したい場合は、「共有の設定」画面で設定してください。

作成時のアクセス権

	読み込み	書き込み	実行
所有者	<input checked="" type="checkbox"/> r	<input checked="" type="checkbox"/> w	<input checked="" type="checkbox"/> x
グループ	<input checked="" type="checkbox"/> r	<input checked="" type="checkbox"/> w	<input checked="" type="checkbox"/> x
その他	<input checked="" type="checkbox"/> r	<input checked="" type="checkbox"/> w	<input checked="" type="checkbox"/> x

オプション

アーカイブ属性をサポートする

システム属性をサポートする

不可視属性をサポートする

以下の「許可されるホスト」および「許可されないホスト」項目は、「共有の設定」画面の
同項目よりも優先的に判断されます。
「共有の設定」画面でアクセスを許可している場合でも、本項目でアクセスを許可してい
なければ、そのホストからはアクセスできません。本項目には「共有の設定」画面で指定
するアクセス許可の範囲よりも広い範囲の許可を設定してください。

設定できる値は、「IPアドレス」および「ネットワークアドレス」です。
複数の値を指定する場合は、「,(カンマ)」、「;(セミコロン)」、半角空白、または改行で区
切って指定してください。
なお、「設定」ボタンを押すと、区切り文字はすべてカンマに変換されます。

許可されるホスト

許可されないホスト

修正箇所（章節項）：5.3.2.3 サーバ環境の設定 【項目の説明】

以下の内容は、V30（U21031 適用時以降）に限定される記事です。

最大ログファイルのサイズ

PCファイルサーバのログファイルの最大サイズを0～9999999で指定する。単位はキロバイトであ
る。

サイズに0を指定すると、無制限にログを採取する。

既定値は512Kバイトである。

作成時のアクセス権

PCファイルサーバ上に、Windowsがファイルまたはディレクトリを作成する際のアクセス権を設定
する。所有者、グループ、その他に対してそれぞれ、読み込み、書き込み、実行を設定することがで
きる。

本項目は、「共有の設定」画面で新しく共有を作成する際に表示される同名の項目の初期値として使
用される。

本項目の値を変更しても、作成済の共有の設定値には影響しない。

既定値では、すべての権限がチェックされている。

最大ログファイルのサイズ

PCファイルサーバのログファイルの最大サイズを0～9999999で指定する。単位はキロバイトであ
る。

サイズに0を指定すると、無制限にログを採取する。

既定値は512Kバイトである。

共有外へのシンボリックリンク

共有ディレクトリの範囲外にある資産を対象としたシンボリックリンクが存在する場合に、シンボリックリンクへの

アクセス可否を設定する。

許可：

シンボリックリンクへのアクセスを許可する。

ただし、非公開の資産に対して、意図しないアクセスが行われる可能性があるため、推奨しない。

不許可 (推奨)：

シンボリックリンクへのアクセスを許可しない。

既定値として、”不許可 (推奨)” が選択されている。

本項目は、PCファイルサーバが停止された状態でのみ変更できる。

作成時のアクセス権

PCファイルサーバ上に、Windowsがファイルまたはディレクトリを作成する際のアクセス権を設定する。所有者、グループ、その他に対してそれぞれ、読み込み、書き込み、実行を設定することができる。

本項目は、「共有の設定」画面で新しく共有を作成する際に表示される同名の項目の初期値として使用される。

本項目の値を変更しても、作成済の共有の設定値には影響しない。

既定値では、すべての権限がチェックされている。

修正箇所 (章節項) : 5.5.2 サーバ環境の設定画面

以下の内容は、V30 (U21031 適用時以降) に限定される記事です。

旧記事

設定に失敗しました。PCファイルサーバ動作中は、以下の項目を変更できません。

- アカウントファイル名
- IPアドレス/ネットマスク (ビット数)
- ワークグループ
- コンピュータ名
- サーバのコメント

[原因] PCファイルサーバが動作中に、変更できない設定項目を変更しようとした。

[対処] PCファイルサーバを停止してから変更する。

新記事

設定に失敗しました。PCファイルサーバ動作中は、以下の項目を変更できません。

- アカウントファイル名
- IPアドレス/ネットマスク (ビット数)
- ワークグループ
- コンピュータ名
- サーバのコメント
- 共有外へのシンボリックリンク

[原因] PCファイルサーバが動作中に、変更できない設定項目を変更しようとした。

[対処] PCファイルサーバを停止してから変更する。

2019年7月30日発行

**修正箇所 (章節項) : 5.5.5.2 PCファイルサーバがドメインに参加処理中、または離脱処理中の場合の、
『ドメインサーバへの接続に失敗しました。
暗号化方式が正しくありません。』**

旧記事

- [原因]
- ドメイン参加時 : 指定した暗号化方式がドメインサーバ側で許可されていない。
 - ドメイン離脱時 : ドメインサーバ側の設定が変更されたため、ドメイン参加時に

- 指定した暗号化方式は現在使用できない。
- 共通 : ドメインサーバ側の設定が変更されたため、アカウントのパスワードは現在使用できない。
- [対処] ドメイン参加時 : ドメインサーバ側で許可されている暗号化方式と同じ暗号化方式を指定し、再度処理を行う。
- ドメイン離脱時 : PC ファイルサーバがドメインに参加した際の暗号化方式を許可するようドメインサーバの管理者に依頼し、再度処理を行う。
- 共通 : ドメインサーバの管理者に依頼し、アカウントのパスワードをリセット（再設定）する。

新記事

- [原因] ドメイン参加時 : 指定した暗号化方式がドメインサーバ側で許可されていない。
- ドメイン離脱時 : ドメインサーバ側の設定が変更されたため、ドメイン参加時に指定した暗号化方式は現在使用できない。
- 共通 : ・ドメインサーバ側の設定が変更されたため、アカウントのパスワードは現在使用できない。
・ドメインサーバ側で設定を変更後に、ドメインサーバの再起動を行っていないため、指定した暗号化方式が許可されていない。
- [対処] ドメイン参加時 : ドメインサーバ側で許可されている暗号化方式と同じ暗号化方式を指定し、再度処理を行う。
- ドメイン離脱時 : PC ファイルサーバがドメインに参加した際の暗号化方式を許可するようドメインサーバの管理者に依頼し、再度処理を行う。
- 共通 : ・ドメインサーバの管理者に依頼し、アカウントのパスワードをリセット（再設定）する。
・ドメインサーバの管理者に依頼し、ドメインサーバを再起動する。

修正箇所（章節項） : 5.5.5.2 PC ファイルサーバがドメインに参加処理中、または離脱処理中の場合の、
『ドメインに登録できませんでした。』

旧記事

- [原因] ドメインサーバ側の登録処理は成功したが、PC ファイルサーバ側での登録処理に失敗した。
・PC ファイルサーバの設定ファイルが格納されているディレクトリの容量が不足した。設定ファイルの格納ディレクトリは、PC ファイルサーバ管理サービスの「サーバの状態」または「サーバ環境の設定」画面の“設定ファイル名”項目で指定したディレクトリとなる。
- [対処] 以下の対処を行う。
1. ドメイン管理者に依頼して、ドメインサーバからPC ファイルサーバのコンピュータ名を削除する。
 2. PC ファイルサーバの設定ファイルが格納されているディレクトリ配下の資源を、CPYTMBR コマンドを使用して一時的に別のディレクトリに退避する。
 3. CRTTLIB コマンドで、拡張多階層ライブラリを作成する。サイズは5MB 以上を指定する。
 4. PC ファイルサーバの設定ファイルを格納するディレクトリを、3. で作成した拡張多階層ライブラリにマウントし直す。
 5. 2. で退避した資源を、PC ファイルサーバの設定ファイルを格納するディレクトリに復元する。
 6. 再度ドメイン参加を行う。

新記事

- [原因] ドメインサーバ側の登録処理は成功したが、PC ファイルサーバ側での登録処理に失敗した。

- ・ PC ファイルサーバの設定ファイルが格納されているディレクトリの容量が不足した。設定ファイルの格納ディレクトリは、PC ファイルサーバ管理サービスの「サーバの状態」または「サーバ環境の設定」画面の“設定ファイル名”項目で指定したディレクトリとなる。

[対処]

以下の対処を行う。

1. ドメイン管理者に依頼して、ドメインサーバから PC ファイルサーバのコンピュータ名を削除する。
2. PC ファイルサーバの設定ファイルが格納されているディレクトリ配下の資源を、CPYTMBR コマンドを使用して一時的に別のディレクトリに退避する。
3. CRTTLIB コマンドで、拡張多階層ライブラリを作成する。サイズは 5MB 以上を指定する。
4. PC ファイルサーバの設定ファイルを格納するディレクトリを、3. で作成した拡張多階層ライブラリにマウントし直す。
5. 2. で退避した資源を、PC ファイルサーバの設定ファイルを格納するディレクトリに復元する。
6. ドメインへの参加を行う。
7. ドメインからの離脱を行う。
8. PC ファイルサーバ管理サービスの [サーバ環境の設定] 画面で、”ワークグループ”項目を設定する。
9. 再度ドメインへの参加を行う。

修正箇所 (章節項) : 5.5.5.4 PC ファイルサーバがドメインに参加済の場合

の

「ドメインサーバ側で異常が発生しました。

ドメイン管理者に連絡してください。

問題が解決されてから、「最新情報を表示」ボタンを押して、最新の状態を確認してください。」

旧記事

[原因]

ドメインサーバと PC ファイルサーバで、ドメイン参加の管理状態が一致しない。
ドメインサーバ側で PC ファイルサーバのコンピュータ名が削除され、再度手動で作成された可能性がある。

[対処]

ドメインサーバと PC ファイルサーバで、それぞれ以下の対処を行う。
ドメインサーバ : PC ファイルサーバのコンピュータ名が登録されている場合は削除する。
PC ファイルサーバ : PC ファイルサーバをドメインから離脱させ、再度参加させる。

新記事

[原因]

PC ファイルサーバがドメイン参加した後で、ドメインサーバ側で設定を変更し、その後、ドメインサーバの再起動を行っていない。
または、ドメインサーバ側で PC ファイルサーバのコンピュータ名を削除し、再度手動で作成したため、ドメインサーバと PC ファイルサーバとで、ドメイン参加の管理状態が一致していない。

[対処]

ドメインサーバ側で設定を変更後に、ドメインサーバの再起動を行っていない場合は、再起動を行う。
上記対処で現象が解消されない場合は、ドメインサーバと PC ファイルサーバで、それぞれ以下の対処を行う。
ドメインサーバ : PC ファイルサーバのコンピュータ名が登録されている場合は削除する。
PC ファイルサーバ : PC ファイルサーバをドメインから離脱させ、再度参加させる。